

風のたより

仙台青陵中等教育学校
第5学年だより NO 4
2020.4.22 発行

5 学年の新しい先生Ⅲ

5年2組の副担任になりました黒田惣一郎です。数学を担当します。3月まで、お隣の仙台高校に9年間勤めていました。前回は東日本大震災、今回がコロナウイルスと、2回続けて日本が大変なときに、学校が変わっています。

出身は西日本の某地方ですが、もう宮城県での生活の方がはるかに長いので、すっかり東北人と化しています。その分恥ずかしがり屋なので声をかけてください。趣味は、映画鑑賞と写真撮影です。学校スナップを撮るのが大好きで、行事や部活の大会・公演なども撮りに行きます。前任校では、私のことを教員ではなく、ずっと卒業アルバムの写真屋さんだと思っている人がいました。撮られるのが嫌な人ははっきり言ってもらってかまいませんが、老後の楽しみでもあるので、できるだけご協力ください。

初めての中等教育学校なので、少し緊張気味ですが、みんなの学習や学校生活に少しでも役立てよう頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

読書のすすめ

こんにちは、4組副担任の森です。

私は日本史以外の本を読むことはほとんどないので、みなさんにお薦めするような本を知りません。よって、とりあえずこの前読んだ本を紹介します。

今から800年も昔、1221年に天下分け目の戦がありました。天下分け目といえは関ヶ原の戦い(1600年)が有名ですが、この時の戦を「承久の乱」といいます。朝廷と幕府が覇権を争い、日本史上のターニングポイントとなった戦です。しかし、これだけ重要な戦にもかかわらず、とてもマイナーな存在です。そこで、このよくわからない戦について、わかりやすく解説しているのが、本郷和人『承久の乱』(文春新書 2018)です。開戦までの経緯や背景、戦の展開、朝廷側があっけなく敗北した理由だけでなく、御家人(幕府の将軍と契約を結んだ武士)の収入や養っている家臣の数など、当時の生活に関わる内容も含まれていて、私にとってとても参考になる一冊でした。

2022年のNHK大河ドラマは、北条義時を中心に鎌倉幕府初期を描く「鎌倉殿の13人」(三谷幸喜脚本)に決定しています。承久の乱がクライマックスになるはずですが、さすがに2022年には通常の生活に戻れていると思いますが、さて…。

大切な連絡

ここ数日、5学年休校メールアドレスに色々な質問がきています。数学の問題の解法や古典の課題範囲に関する質問などありました。そんな中で「研究論文の課題の一つで、『研究論文の内容に関する本を春休みからGWにかけて一冊読んでおいて、顔合わせの時に発表してください』というものがありました。外出の自粛や図書館の閉館等により考えていたような書籍を読むことができない」という質問がありました。このようなことについては、「絶対に無理はしないでください。出来る範囲で対応すれば大丈夫です。」ということになります。

但し、4月に渡された(*3月に配付された課題で指示があったものを含む)課題は全て家庭において解答可能なものであり、成績評価の対象となることから、全てしっかりと取り組み、提出できるようにしておいてください。